

# 大田高校 人権だより

令和6年3月22日 大田高等学校 図書・人権・同和教育部

## <3学期の人権教育HR活動報告>

2年生は「部落差別の歴史に学ぶ」をテーマに、「教科書無償化運動」の資料を用いて、その意義や人々の権利保障の考えを学びました。憲法の条文の言葉が本当に意味すること、そしてそれを実現させるために闘った人々の姿を通して、差別解消に向けて行動することの大切さについても考えを深めました。以下は生徒たちの感想の一部です。

\*\*\*\*\*

最初は読書会から始まった小規模な運動であっても、たくさんの人々がその主張に共感し、国にもその正当性が認められたことで、現代にもつながる影響を与えたことがわかりました。

小・中学校の時、教科書の裏に「感謝して使いましょう」と書いてあって当たり前のことをなんで書いてあるのだらうかと思っていましたが、こんな背景があったことを知ったらありがたみを感じました。

差別をなくすための運動は、みんなの人権を守り、社会を豊かにするというのを改めて感じました。みんなのために行動を起こすことは、とても勇気のいることだけど、自分が声をあげれば、同じような意見をもつ仲間を見つけられ、その人の集まりが国を変える力になり得るのだと思うと「おかしいな」ということを「変えよう」と動き出せる人になりたいと思いました。私自身も昔の人が起こした教科書無償化運動の恩恵を受けていることから、そのような勇気ある人たちの行動を次につなげ、日本をもっと国民の望む国にしていくには何が必要か考えていきたいです。

「教科書をタダにする会」の人たちが行動を起こさなかったら、今でも教科書が無償になっていなかったかもしれないので、運動を行った人たちの行動力を見習いたいと思いました。自分だけではなく他の人たちのことも考えて勇気をもって行動することは、社会を良い方向に変化させるためにとても大切だとわかりました。

なぜ教科書が無償なんだろう？と考えたことは今までありませんでした。子どものためを思って闘ってくれた保護者の人たちには、とても感謝しなければいけないと感じます。私は周りに流されて意見を変えてしまったことがあるので、自分の意見を周りにしっかり伝えることが大切だなと思いました。

自分が差別され権利が傷つけられていると感じたら、それを行動にすることで、周りに自分の考えに賛同する人が出てきて、社会のために、みんなのためになると思った。

世の中に対して不満に思うことがあっても、それが当たり前だと最初から諦める人が多いと思うので、私は勇気を出したらみんなのためになると思ったら、すぐに行動できるようになりたいと思いました。

行動を起こすことの大切さ、行動にうつしてから継続させることが大切なんだと、この話を聞いて思いました。あきらめず行動を継続すれば、賛同してくれる人はいるはずだから、結果が実るまでは、やめてはいけないなと感じました。

この問題は、法律上の問題だけでなく、差別という人権が深く関わっていることを知ることができました。確かに、自分が社会に出た時に、どの立場になってもおかしくないの、すぐ考えさせられました。

憲法について自主的に学習していること自体がまず素晴らしいなと思った。何歳になっても学び続け、疑問や課題を見つけ、それらを解決するために行動していきたい。

\*\*\*\*\*

(活動の様子)



## <人権意識調査アンケートについて>

大田高校では、1年時と3年時に、人権に関する同じ内容のアンケートを実施し、3年間の変容を見えています。

令和5年度3年生は、1年時のアンケート結果と比較すると、3年間の人権教育によって「部落差別の問題に対する意識を持っている生徒の割合が増加した」ことがわかりました。卒業後も正しい人権の知識と意識をもって、人生を歩んでいってくださることを願っています。